

国営明石海峡公園 整備・管理運営プログラム

平成 32 年度までの整備及び管理運営方針



国営明石海峡公園の概要	1
今後五年間の整備・管理運営の重点事項	8
整備方針（淡路地区・神戸地区）	9
管理運営方針	11
公園事業の効果	14

平成 29 年 3 月

国土交通省 近畿地方整備局 国営明石海峡公園事務所

自然と人との共生、人と人との交流

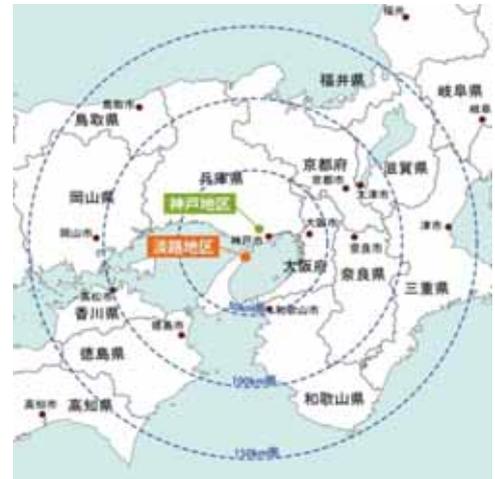
国営明石海峡公園は、明石海峡大橋を挟んだ周辺地域の広域的なレクリエーション需要に応えるため、兵庫県淡路市の『淡路地区』と神戸市北区、西区の『神戸地区』の2地区で整備を行っている全体計画面積 330ha の国営公園です。

基本テーマは『自然と人との共生、人と人との交流』。

淡路地区は、緑を失った土取り場跡地を花いっぱいの海辺の交流空間として再生し、神戸地区は、大都市の近郊で里地里山文化を体験できる公園づくりを行っています。

淡路地区は平成 14 年 3 月に一部開園し、神戸地区は平成 28 年 5 月に一部開園して運営を開始したところです。

■広域位置図



■位置、計画面積

	淡路地区	神戸地区
コンセプト	「海辺の園遊空間」	「里地里山文化公園」
概要	国際的でリゾート感溢れる海辺の園遊空間の創造を基本として、隣接施設と連携を図りながら整備を進めており、平成 29 年 4 月現在、計画面積(96.1ha)の約 42%となる 40.4haが開園しています。	大都市近郊で、豊かで広大な里山環境を守り育てながら、ゆとりある身近な森として利用できるよう整備を進めており、平成 29 年 4 月現在、計画面積(233.9ha)の約 18%となる 41.3haが開園しています。
位置	兵庫県淡路市	神戸市北区・西区
計画面積	96.1ha (うち 40.4ha 開園)	233.9ha (うち 41.3ha 開園)

■供用の経緯

淡路地区	
H7 年度	国営明石海峡公園(文化・交流ゾーン、海岸ゾーン)都市計画事業承認
H13 年度	第 1 期開園(30.1ha) 文化・交流ゾーン及び海岸ゾーンの一部
H15 年度	第 2 期開園(6.2ha) 移ろいの庭、芝生広場
H16 年度	第 3 期開園(0.9ha) ビジター棟、淡路口ゲート、芝生広場大型複合遊具
H22 年度	第 4 期開園(2.3ha) 淡路口駐車場、9 号園路
H28 年度	第 5 期開園(0.9ha) 淡路口駐車場、細園路等
神戸地区	
H8 年度	国営明石海峡公園(神戸地区)都市計画事業承認
H28 年度	第 1 期開園(41.3ha) 棚田ゾーン、森のゾーン、自然保全ゾーンの各一部

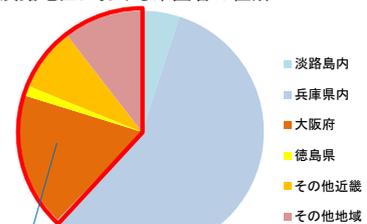
■淡路地区の入園者数の推移

○利用者数は増加傾向にあり、近年の年間利用者は 50 万人を超えるようになりました。



○広域的に誘致を行い、約 4 割の利用者が県外から利用されています

淡路地区における来園者の住所



県外からの来園: 年間38% (H23~H26平均)

(大規模な花修景が楽しめる春の休日には、58%が県外から(H26))

■淡路地区の概要

淡路地区は、国際的な交流の場として、周辺との役割分担を図りながら、大規模な土取り場跡地の自然を回復し、新たな園遊空間の創出を図っています。

◆整備方針

1. 自然回復と望ましい環境形成を目指す
2. 「花」「海」「島」を活かしたランドスケープと園遊空間の場づくりを図る
3. 21世紀の快適な都市づくりとライフスタイルに新たな提案を行う
4. 周辺との連携で核となる整備を図る



◇展望ゾーン (未開園)

国営公園、国際公園都市の背景として斜面緑地を整備保全。明石海峡大橋、大阪湾を一望できる展望の場とする。

◇文化・交流ゾーン (部分開園中)

瀬戸内海、淡路島の自然・歴史・文化を基調に、国際交流にふさわしい園遊空間を整備する。

◇海岸ゾーン (部分開園中)

海岸レクリエーション利用の場となるとともに、海の玄関口として港湾施設との連携利用を図る。

○施設配置図



○開園している主な施設 <淡路地区>

施設名	写真	施設概要
① 滝のテラス		水上につくられたテラス。岩の合間から流れる7つの滝の音を感じながら、のんびりと水辺のお散歩が楽しめます。
② 月のテラス		紀淡海峡につながるダイナミックな風景が楽しめるとおきのビューポイント。ネモフィラの咲く季節には、空と海とネモフィラの青がとけあう風景がお楽しみいただけます。
③ 空のテラス		淡路特産の瓦を使った小庭園で、園内の緑と空と大阪湾の海が見渡せる見晴しスポット。
④ たこさん花壇		東浦ロゲートを入ってすぐのところにある“明石”ならではのたこをモチーフにした立体花壇は、いつでも季節ごとの花でお出迎えます。
⑤ 花火鳥花壇		阪神・淡路大震災からの再生と復活の祈りを込めた高さ4m長さ30mの花火鳥は大人も見上げる大きさ。季節により花の種類が変わり、花火鳥も衣がえします。
⑥ 大地の虹		春はチューリップ、夏はヒマワリ、秋はコスモスと季節の花々が虹のように咲きほこります。まるで、虹から虹へと散歩しているような雰囲気味わえます。
⑦ 花の中海		スワンボートに乗って、中海と水路をめぐりながら、四季の花の色や香りを感じていただけます。かわいいカモたちとのふれあいも楽しみのひとつ。
⑧ 海のテラス		園内で最も海に近いテラス。大阪湾の海はもちろん、天気の良い日には本州の山々もくっきり見ることができます。

■神戸地区の概要

神戸地区は、土地の歴史・文化を含めた自然環境を保全し、自然との共生を中心とした伝統的な自然観を継承することによって、いのちの賑わいが豊かな「里地里山文化公園」を目指します。

整備方針

1. 歴史・文化を含めたこの土地の里地里山の景観を、新たな技術を導入しながら再生し、継承していくことを目指す
2. 国際都市神戸に位置することから、自然と人との共生という伝統的な日本人の自然観を海外の人々にも発信することを目指す
3. 誰もが利用できる都市公園というレクリエーションの場を活用して、里地里山文化を体感できるとともに、大規模な里地里山を「動態」として保全し、これを継承していく際のモデルとなる公園づくりを目指す
4. 環境保全と豊かな暮らしを同時に求める、持続可能な新しいライフスタイルの提案を目指す



◇棚田ゾーン (部分開園中)

棚田やため池などの里地里山風景を楽しめ、農村生活や工芸体験ができる施設を整備します。

◇森のゾーン (部分開園中)

緑に囲まれた環境の中、自然を学び、楽しむ野外フィールドを整備します。

◇自然保全ゾーン (部分開園中)

管理と利用のバランスを保ちながら、貴重な動植物の生息・生育環境を保全します。

◇水と緑のゾーン (未開園)

隣接するキーナの森とともに自然環境との生物多様性のネットワークを保全・形成します。

○施設配置図



○開園している主な施設 <神戸地区>

施設名	写真	施設概要
① 里山交流館と木工棟		屋内での環境学習やセミナーなどを行う「里山交流館」と工作などクラフト体験ができる「木工棟」では、里地里山の学習や素材を生かした体験ができます。
② 里山情報館		公園のインフォメーションセンター。市民団体による生き物や標本の展示、公園内の見どころ、イベント情報など公園の魅力を発信します。
③ 伝庫の家と農家のにわ		移築された茅葺き民家「伝庫の家」は、17世紀中期に建てられた典型的な農家の家屋です。
④ 白拍子棚田・だんだん畑		棚田ゾーンのある中心にある白拍子(しらべし)棚田、だんだん畑は、昔からの地形を生かして急な法面の畦を再生し、水田耕作や畑作を行っています。
⑤ 小野水田		農作業や収穫などの体験プログラムの中心地であり、谷戸の大らかな水田、畑、蓮田が広がります。
⑥ めだか池		池の上に木製デッキが渡してあり、里山に生きる水辺の生きものを観察することができます。
⑦ つつじの広場		春先には、コバノミツバツツジが咲く美しく手入れされた明るい里山林をのんびり散策できます。
⑧ 里山美林		繁茂した竹や樹木を間伐し手入れした里山林。足元まで光が差し込む明るい落葉樹林です。

■国営明石海峡公園のストック効果

<淡路地区>

土取り跡地の自然再生

昭和30年代後半から平成6年まで、関西ベイエリアの埋立て用土砂として約1億 m^3 が搬出された岩盤剥き出しの土地に、公園事業によりなだらかな地形や人工池をつくり、約340種類8万本を超える植物を植栽しました。今では樹木が生長し、失われた緑が美しく回復しています。



整備前
(1994年)



整備後
(2000年)

観光・交流の拠点

年間を通じ立体的で多品種の花壇デザインによる美しい花の景色を創出し、花の島・淡路島を代表する観光の中心的な施設となっています。また、広い芝生広場や駐車場を活かし、地域の大規模イベントの会場として活用され、地域振興に貢献しています。



← 年間を通じて美しい花の景色を維持



← 淡路夏まつりには一日で約5万人が来園。平成28年のフィナーレには5,500発を超える花火が打ち上げられた。



← 野外音楽フェスには1日あたり7~8千人の若者層が来園

広域的な防災力向上

淡路地区は、淡路鳴門自動車道に近くヘリの離着陸を遮るものがないなど陸・海・空のアクセスがよく、津波に対して安全[※]であり、岩盤で液状化の可能性も低いという防災上有利な立地にあり、南海トラフ巨大地震などの大規模な災害発生時には広域防災拠点として機能します。

※海岸ゾーンの地盤高は6m以上であり、兵庫県の南海トラフ巨大地震津波浸水シミュレーションにおける近傍点の最高津波水位は2m以下であることから、台地上への浸水はないと想定されています。

(兵庫県 南海トラフ巨大地震津波浸水シミュレーション 平成25年12月24日公表)より)



←ヘリコプター
離着陸訓練

【コラム】 自衛隊との防災協定

淡路地区は広域防災拠点として指定されており、自衛隊や消防の物資の集積、臨時ヘリポート、部隊の露营地等として活用される拠点となります。2015年3月には自衛隊と「災害時等の国営公園の占用に関する協定」を結んでいます。

環境学習・園芸福祉の場

地域の大学やボランティア団体等との連携により、小学生を対象とした環境学習(平成27年度:3回、223名参加)、植物の香り等を用いた園芸療法プログラム(平成27年度:7回 48名参加)や障がいのある方が花壇管理等に参加する園芸福祉(平成27年度:9回 211名参加)の場として活用されています。



園芸療法プログラム

<神戸地区>

里山景観の再生・保全

神戸地区の区域は、数百年に渡って農業空間として維持されてきた豊かな里山でした。昭和 30 年代から燃料革命や生活スタイルの変化により手入れがされなくなり、ネザサやツル等が茂る荒れた状態だったのを、公園整備によってもう一度人の手を加え、里地里山の典型的な景観を蘇らせています。



整備前
(2002 年)



整備後
(2014 年)

伝統的な自然観の継承

二十四節気七十二候で表現される花の開花や虫や鳥の出現などの自然の変化に応じ、収穫・体験・自然観察などの多様なプログラムを提供します。公園という事業手法を活かし、子どもからお年寄りまで誰もが気軽に里山の営みに触れることで、自然と共生する日本人の自然観を伝えます。



水辺の生きもの観察会

【コラム】 二十四節気七十二候とは？

太陽と月の動きを組み合わせた太陰太陽暦「旧暦」では、春夏秋冬をそれぞれ六つに分けた二十四節気やこれをさらに三つに分けた我が国固有の七十二候で季節を表していました。

市民参加による公園づくり

神戸地区は、整備段階から多くの市民団体との協働により事業を進めてきました。市民がボランティアとして里山や自然に関する知恵や技術を活かして地域の里地里山を保全するとともに、自身も楽しみながら来園者をおもてなしする、市民参加型の公園整備運営のモデル事業です。



とんど焼き



あいな里山まつり

ボランティア年間参加者



地域の歴史・文化の発信

江戸時代建立とされる茅葺きの古民家や、伝統芸能の農村歌舞伎を演じることのできる農村舞台を活用して、地域に息づいていた暮らしの文化や当地周辺に多く残る源平合戦などに関する地域の歴史を伝えます。



← 江戸時代に建築された近隣の茅葺き 古民家の移築、公開



← 農村歌舞伎の上演の場を提供

“花の公園島”淡路 “大都市近郊の里山”神戸 それぞれの 地域特性を活かした魅力ある公園づくりの推進

淡路地区においては、開園以来培ってきた高度な植栽技術を活かし、四季折々の花修景をさらに充実するとともに、海に面した大規模公園ならではのパノラマ眺望を楽しめる海岸ゾーンの追加開園により新たな魅力を加えていきます。

神戸地区においては、開園した棚田ゾーンにおける里山体験プログラムの充実や里山らしい花のみどころ整備等による景観向上を行うとともに、自然環境の中でのアクティビティなどの拠点となる次期整備区域・森のゾーンの計画づくりを進めます。

多様な主体の参画、連携の促進

ボランティアグループや市民団体との協働による体験プログラムの実施や、民間事業者との連携による音楽、文化、スポーツなど各種イベント開催を促進するとともに、追加開園区域において民による収益施設の導入等による公園資源の活用の可能性検討など、多様な主体の参画、連携を促進します。

地域との連携による観光振興への寄与

明石海峡を挟み高速道路でアクセスしやすい、約30分で結ばれた立地を活かした2地区の連携や、両地区の周辺施設（淡路地区：淡路夢舞台・県立公園等、神戸地区：しあわせの村、キーナの森等）との連携を一層促進し、地域観光の振興に寄与していきます。

また、里地里山文化などの情報発信の積極的な実施や、外国人向けのサービス（多言語リーフレット、Wi-Fi等）充実によりインバウンド対応を進めます。

災害に強い地域づくりへの貢献

淡路地区においては、広域防災拠点の位置付けや自衛隊との災害時公園使用に関する協定等を踏まえ、関係機関との連携による防災訓練の実施等により、広域の防災機能向上への貢献を促進していきます。

また、老朽化しつつある自家発電装置等の適切な維持・更新も行い、非常時への備えを確保していきます。

< 淡路地区 >

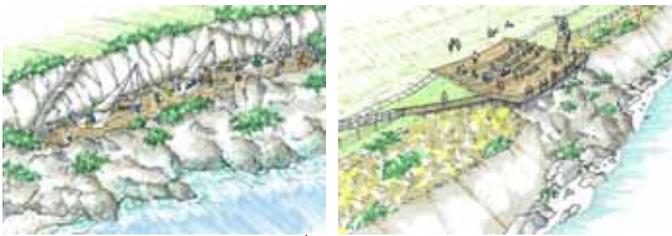
海岸ゾーンの整備、リニューアルを進め、完成した施設を順次開園します

次期整備区域約12ヘクタールの整備計画

- ・明石海峡大橋を都市の日常から抜け出すゲートウェイとして、気分を“リセット”して、ゆっくりとした贅沢な時間を約束する淡路島体験へと誘(いざな)う拠点となる公園を目指します。
- ・花の景色づくりを中心としたエリアに加え、「国生みの島」の神話の舞台となった海の眺めと波音や香り、陽のひかり、風を五感で感じられる場所を提供し、魅力をアップします。
- ・海と山の自然に包まれながら、アウトドアのアクティビティやスポーツを楽しむことができる開放的な場所を提供します。

シースケープ・フィールド（新規整備）

- ・大阪湾を望む高台の広場、波音を聞きながら景色を楽しむテラスや、海を五感で感じられるデッキでのんびり過ごし、海辺に続く園路を歩いてこれらのスポットを巡るなど、季節ごと、時間ごとに表情を変える多彩な海の魅力を楽しめるエリアにします。



シースケープ・ラウンジ（新規整備）

- ・民間活力の導入により、海の眺望をテーマとしたレストラン・カフェ、物販や体験型サービスを提供する施設を集めるエリアにします。
- ・海辺をイメージした統一感のあるデザインによって、洗練された質の高い空間づくりを行います。



海岸ゾーンの整備イメージ

アウトドア・ベース（バーベキュー広場のリニューアル）

- ・バーベキュー広場の再整備を行い、手ぶらバーベキューを中心として、ホテル並みのサービスが整えられたグランピングや本格的な屋外クッキングなど、質の高い海辺のアウトドア体験ができるエリアにします。



< 神戸地区 >

あいな 藍那口整備によるアクセス向上、茅場の追加整備



藍那口 整備イメージ図

平成 28 年 5 月に開園した棚田ゾーンについて、来園者のアクセスの利便性向上のため、藍那口の整備（県道接続部の付替え等）を行います。

また、茅葺き民家の持続的な維持管理のため、茅葺き屋根材の生産場となるかや場の整備を行い、自然と共生する里山の営みの体験の場の充実と施設補修のコスト縮減を図ります。

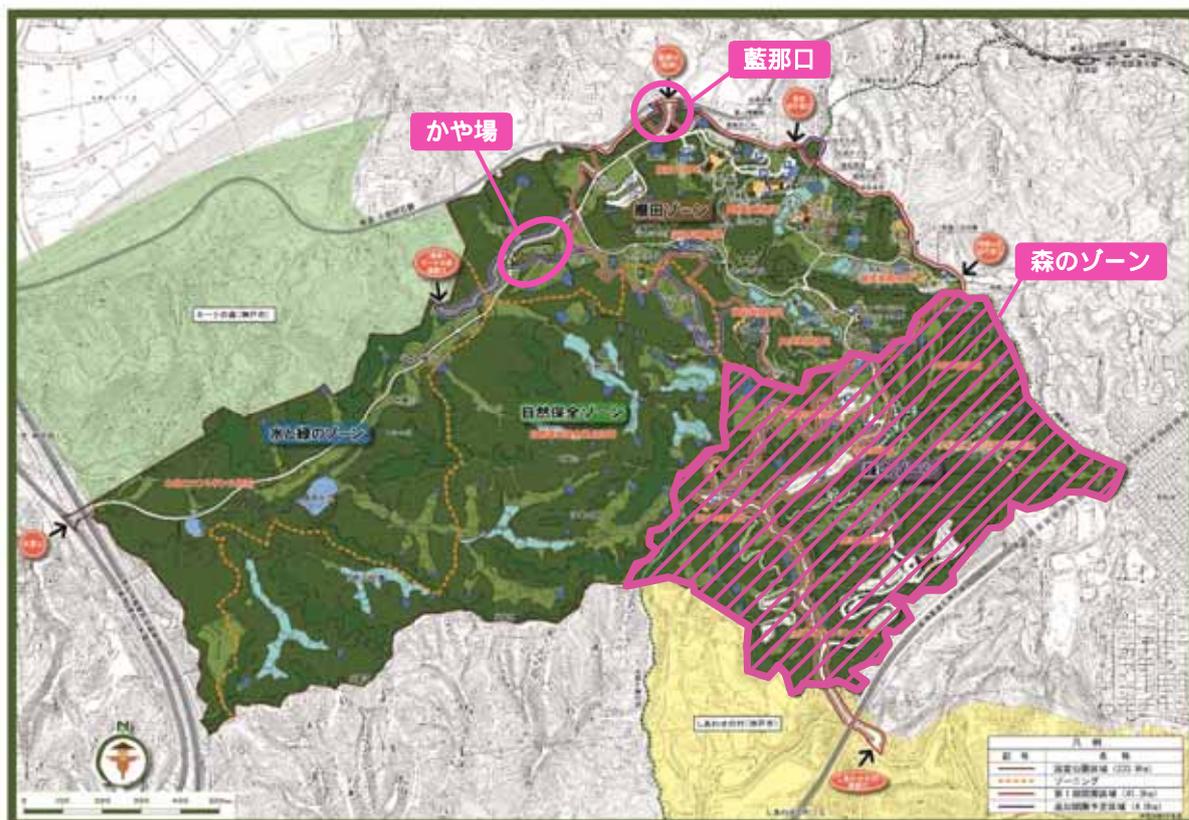
次期整備区域である森のゾーンの整備計画検討



森のゾーン 整備イメージ図

棚田ゾーンにつづく開園区域として、緑に囲まれた環境の中、子どもたちが自然を学び、楽しむ野外フィールドである森のゾーンの整備計画を策定し、早期着工を目指します。

計画検討にあたっては、里山環境や子どもの活動等に詳しい市民団体、教育機関との協働で進めていきます。



神戸地区 整備箇所図

2地区一体型の国営公園の特色を活かし、 広域的な利用促進を進めます

淡路地区は「海辺の園遊空間」、神戸地区は「里地里山文化公園」という異なる魅力を持ちながら、ともに神戸の中心地三宮から約 20km に位置しており、両地区間は阪神高速、明石海峡大橋を利用すれば、約 30 分で移動できる立地となっています。



インバウンド対策の推進

トイレ洋式化、Wi-Fi 環境整備、多言語対応化

増加を見込む外国人来園者の利便性向上のため、トイレの洋式化、Wi-Fi 環境の整備や、リーフレット、園内サイン、券売機などの多言語化を進めます。

また、周辺施設と連携し、地域一体のインバウンド対策に取り組んでいきます。



多言語対応化イメージ

バリアフリーの促進

高齢者や小さなお子様連れにもやさしい公園

障害を持つ方が花や自然を楽しむことのできるイベントの充実や休憩コーナーの増設など、より多くの方に満足いただけるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを意識した運営を行います。

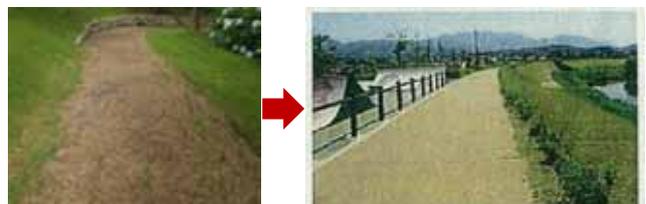


レイズドベッドを使った植栽体験

安全な公園利用のための施設改修

淡路地区では、安全で快適な公園としての機能回復のため、老朽化した園路、遊具、放送通信施設などの施設改修を進めます。

神戸地区では、茅葺き屋根の定期的な補修などを行います。



園路改修イメージ

< 淡路地区 >

高度な植栽技術、デザインの工夫による季節の花の風景づくり

チューリップ、ダリヤ、コスモスなど四季折々の花修景や、多品種で立体的にデザインした花壇などの高度な植栽技術によって、季節ごとに関西屈指の花の風景づくりを行います。

およそ5年ごとに開催され淡路島全島各地で花、食、歴史、暮らしなどの魅力発信を行う“淡路花博”の期間においては、拠点施設の一つとして、大規模な花修景や情報発信を行います。



四季折々の花修景

多様なイベント開催による活性化、交流促進

これまで成功してきた大規模イベントに加え、良好なアクセスや海・花に囲まれた平坦な芝生広場等の立地条件を活かして、さらに多様な主体によるイベントを積極的に誘致し、地域の活性化、交流の促進に貢献します。



第10回淡路市夏祭り

周辺施設との連携による公園運営

隣接する、世界的な建築家安藤忠雄氏設計の淡路夢舞台のホテル、植物館、国際会議場や、周辺の公園、観光施設等との連携により、個性的で魅力ある利用コンテンツの開発を進めます。

また、公園の北側で進められている淡路市夢舞台サステイナブル・パーク創造事業と連携し、当地区の良好な都市生活基盤の形成に貢献します。



周辺施設と連携したイベント

広域防災拠点としての備え

大規模な災害発生時に災害派遣活動の拠点等としての運用を迅速、円滑に行うことができるよう、来園されているお客様を安全に避難誘導する訓練や、自衛隊等との情報伝達訓練等を充実するとともに、非常用発電施設の設備更新など、災害発生に備えて取り組んでいきます。



災害時に防災拠点となる広場

< 神戸地区 >

市民団体との協働

神戸地区では整備段階から協働で公園づくりを行ってきた市民団体のボランティアの方々が、里地里山に関する知恵や技術を活かし、自ら楽しみながら公園の魅力や楽しみ方をお客様に伝えることで、温かいおもてなしが行われています。より一層の魅力アップに向け、引きつづき協働・連携を進めます。



木エクラフト教室

里山の暮らし・文化を伝える体験プログラムの充実

里地里山環境を最大限に活用し、二十四節気七十二候で表現される自然の変化と里地里山作業を組み合わせ、収穫・体験・自然観察などの多様なメニューをセットにしたプログラムを充実していきます。



トウモロコシの収穫

野草など花の見どころの充実を含む里山景観の魅力向上

手入れされ日当たりがよくなった里山林や、田んぼの畔、湿地などに生育する自生種の野草を中心に、花のみどころを充実し、懐かしい風景と花を一体で楽しむことができる場所を増やします。



白拍子棚田 キキョウの風景

里地里山文化の情報発信の推進

水田や畑を耕し、山から燃料、肥料などを得て暮らしていた里山の営みに代表される、自然と共生する日本人の伝統的な自然観を、子どもたちに体験を通じて伝えていくとともに、海外にも情報発信していきます。



丸太切り体験

事業の効果

- 淡路地区海岸ゾーンの追加開園により、1キロ以上の海岸線での海へのパノラマ眺望を活かした新たな魅力を提供できるようになり、来園者の増加による地域の活力の増進につながります。
- 市民団体や民間事業者など多様な主体の参画・連携の促進により、本公園の資源をさらに活用した新たな視点のサービスが提供できるようになり、新たな来園者層の発掘につながります。
- 民間施設を含めた周辺施設との連携を促進し、各々の得意分野を活かした取り組みを行うことで、地域の個性や魅力を発揮した効果的な観光活性化の進展が期待できます。
- よく手入れされた大きな公園があることで、特に淡路地区所在地周辺では、民間開発におけるブランドとなり、不動産価値の向上に寄与します。
- 定期的な訓練や非常用設備の更新等により、広域防災拠点として地域の防災性が向上します。



淡路花博 2015 花みどりフェア
(淡路地区 大地の虹～ポプラの丘)



秋のカーニバル
(淡路地区 ポプラの丘)



古民家で休憩
(神戸地区 相談ヶ辻の家)

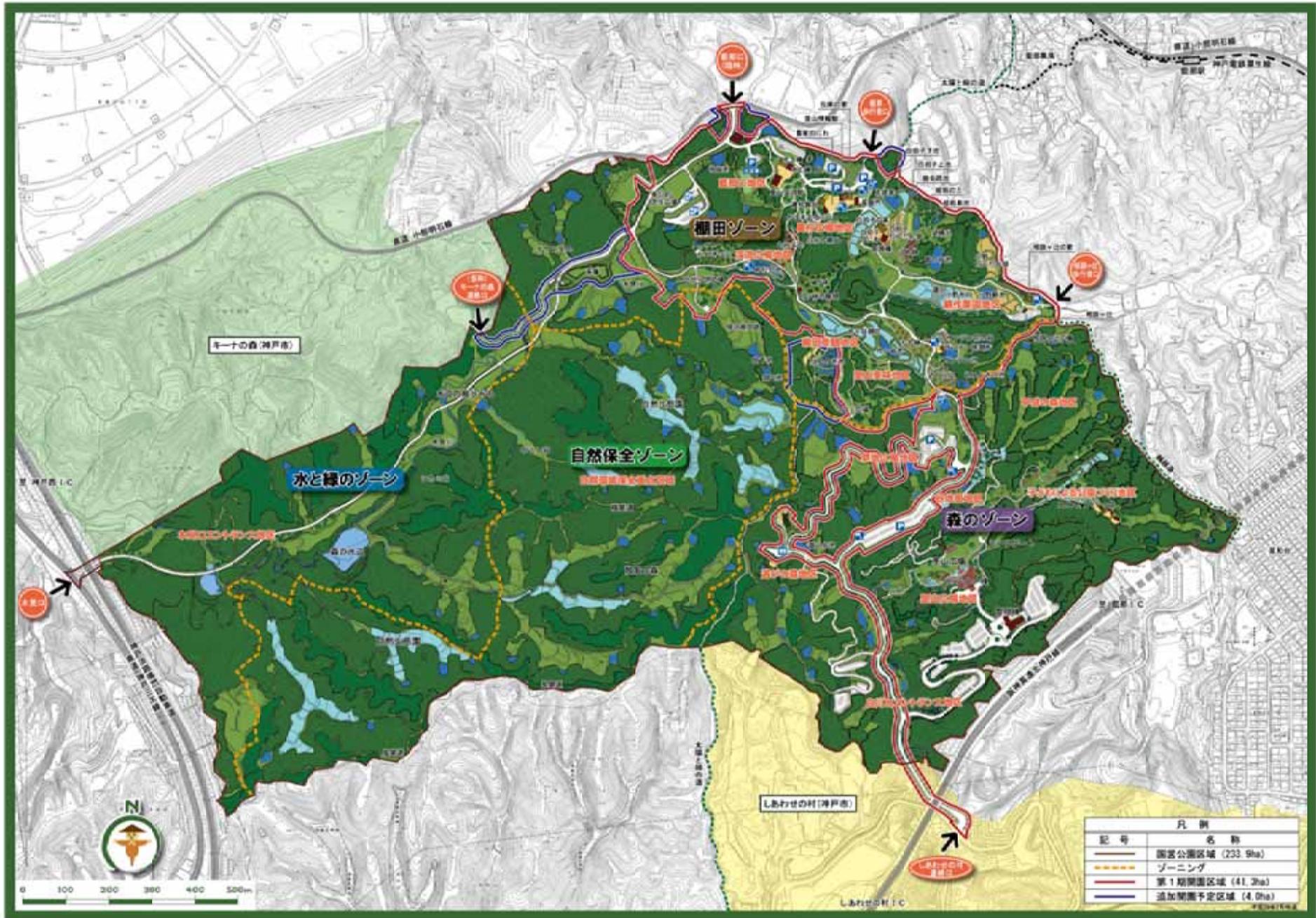


もちつき体験
(神戸地区 農家のにわ)

なお、本プログラムは、事業の進捗状況などをふまえ、適宜見直しをしていくものです。



淡路地区計画平面図



神戸地区計画平面図